

# 情報活用力を高める学習

進路選択には情報収集と活用が欠かせない。IT時代にあつて、日本の高校1年生の「デジタル読解力」は世界4位と堂々たるもの。コンピュータに対する苦手意識はまったくなく、1日およそ2時間もインターネットに費やす。けれども本当に必要な情報を選択し、有効に活用できているのだろうか。そこに着目し、情報リテラシーに関する取り組みを実践している高校を紹介したい。

取材・文／永井ミカ

図1 「デジタル読解力」および「プリント読解力」の国際比較

順位	デジタル読解力		プリント読解力	
	国名	平均点	国名	平均点
1	韓国	568	韓国	539
2	ニュージーランド	537	香港	533
3	オーストラリア	537	ニュージーランド	521
4	日本	519	日本	520
5	香港	515	オーストラリア	515
6	アイスランド	512	ベルギー	506
7	スウェーデン	510	ノルウェー	503
8	アイルランド	509	アイスランド	500
9	ベルギー	507	ポーランド	500
10	ノルウェー	500	スウェーデン	497
11	フランス	494	アイルランド	496
12	マカオ	492	フランス	496
13	デンマーク	489	デンマーク	495
14	スペイン	475	ハンガリー	494
15	ハンガリー	468	マカオ	487
16	ポーランド	464	スペイン	481
17	オーストリア	459	オーストリア	470
18	チリ	435	チリ	449
19	コロンビア	368	コロンビア	412
	OECD平均	499	OECD平均	499

情報リテラシーを日本の生徒は身につけているか？

左の表は「OECD生徒の学習到達度調査」の結果から抜粋したもの。図1によると日本の高校1年生のデジタル読解力は世界第4位で、プリント読解力と同順位だ。デジタル読解力とはコンピュータを使って問題を讀んだり答えたりする調査で、ホームページへのアクセスや、クリック、スクロール、コピー&ペースト、メールの送受信などの知識や技術が必要になる。これが第4位であり、また図2の習熟度を見ても、デジタル読解力のレベルが低い生徒は少ないことから、日本の生徒はICTリテラシーをある程度身につけているといえる。

実際、課題研究における調べ学習ではインターネット、プレゼンテーションではパワーポイントなど、多くの学校の進路先研究や総合的な学習の時間でコンピュータが使われている。「生徒たちにデジタルへの抵抗感はまったくなく、技術を身につけるのも早い」と多くの先生方はいう。ただし、日本の生徒の場合、普段の教科の中でコンピュータに触れる機会は少ない。同じ調査の中のアンケートによると、国語の授業でコンピュータを使っている割合はOECDの平均が26%に対し、日本はたった1%。ほかの教科でも結果は似たようなもので、マルチメディアの作品作成や表計算ソフトを使ったグラフの作成についても、日本の生徒は低い水準だった。一方で、家庭でイ

図2 日本の「デジタル読解力」と「プリント読解力」の習熟度別割合

	レベル1以下	レベル2	レベル3	レベル4以上
デジタル読解力	6.7%	20.5%	38.9%	33.9%
プリント読解力	13.6%	18.0%	28.0%	40.4%

※ OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA2009)、「デジタル読解力調査」より。19か国・地域、約36000人の15歳児(高校1年生)が参加。  
※ 「デジタル読解力調査」  
デジタルのテキスト(コンピュータ画面による調査問題の提示・解答)によって「読解力」を測る調査。問題を解くために、「プリント読解力」(紙媒体の問題冊子、鉛筆によって読解力を測る調査)に加えて、ホームページへのアクセス、ボタンのクリック、コピー&ペースト、eメールの送受信、ウェブの掲示板への書き込みなど、いわゆるICTリテラシーに関する知識・技能が必要。

ンターネットに接続する時間は急増。弊社「高校生のWEB利用状況の実態調査」では、およそ半数の高校生が1日2時間以上をパソコンを使つてのインターネットに費やしているという結果となった。こういった環境の中で、生徒の真の「情報活用力」を高めていくにはどうすればいいのか。古くから「読書科」という独自の教科でメディアリテラシーに取り組んできた関西学院高等部の種谷克彦先生は「情報の洪水の中に生徒を放り込むだけでなく、情報の背後を見抜く力、見抜こうとする意欲・態度の育成が必要」という。今回はこの関西学院高等部と、新しく情報活用力を高める取り組みを始めた2校を紹介する。

# メディアリテラシー習得から論文作成へ。 問う力と答える力を育てる独自教科「読書科」

— 兵庫・私立 関西学院高等部 —



読書科・司書教諭  
種谷克彦先生

### School Data

普通科 / 1889年創立  
生徒数 / 男子929人  
進路状況(2010年実績) / 大学96%、その他4%  
兵庫県西宮市上ヶ原一丁目1-155  
TEL 0798-51-0975  
URL <http://www.kwansei.ac.jp/hs/>

## 1学年で情報リテラシー・ メディアリテラシーを習得

私立関西学院高等部は、1977年から独自の教科として各学年必修で1単位「読書科」を設けている。答える力偏重の学力観を克服し、問う力(問題発見能力、問題設定能力)と答える力(問題解決能力)をともに育てるのが狙い。1学年の「テーマ読書」から始まり、最終的には3学年で各自が自由なテーマを追究して論文を作成するもので、授業は図書館で行う。現在、読書科を専任で担当するのは種谷克彦先生。種谷先生は、26年間、公立中学や高校でNIE教育に力を入れてきた経験から「多くの学校における情報教育は表層的なコンピュータリテラシーの習得にとどまっているのではないか」という危惧を抱き、現在は読書科で二歩踏み込んだ情報教育を実践している。

1学年の初めのテーマ読書では、図書新聞作成(集団)とブックトーク(個人)を実施。まず図書館の使い方に慣れ、一定のテーマに沿った本を数冊読み、その内容を発表することで、読書の楽しさを体験し意欲を掘り起こす。

次は、情報リテラシーの習得として、OPAC(図書館の蔵書データベース)と新聞のデータベース「スクールヨミダス」朝日けんさくくん」を検索できるようにする。そして、もっとも難関であるメディアリテラシー教育については「端的にいえば、純粋に客観的な情報などは存在しないという

ことを、さまざまなしかけによって生徒たちに興味深く実感してもらい、情報の背後を見抜く力、見抜こうとする意欲や態度を育てたい」と種谷先生。たとえば、四大ネットワークのプリント(図)を使い、「夏の甲子園の主催新聞社は？」「春の甲子園は？」「正月の高校サッカーの主催テレビ局は？」といった話題を交えながら情報の多様性を理解させる。

また、客観的な新聞であっても発信者の意図が反映されていることを理解させるために、各新聞が掲載した堀江貴文氏の写真や見出しの比較を行ったりしたこともある。さらに、辞書や教科書でさえも主観が入っていることを、実例を出しながら伝えていくのである。

## 今後の課題は 「デジタル病」の克服

2学年からは論文作成。まずは、さまざまなプリントを配って話し合いながら、個々の生徒が抱えている興味や疑問を意識化する手助けをし、関連書物を集め、そのタイトルや目次や序文から題材に対する著者のスタンスを見抜く演習に移っていく。9月にテーマ決定し、研究を進める。

読書科には「異なる価値観や考え方を持つてテーマを追究している生徒一人ひとりと向き合える面白さがある」と種谷先生。例えば、環境問題について研究しようとする生徒に対しては「温暖化」や「ゴミ問題」などに絞ることを提案するのが常

だが今年度はある生徒が「原点に立ち返って『環境問題』とは何かを追究したい」と話したそうだ。そういう生徒に影響を受け、それをまたほかの生徒にも還元する。一方、課題としてはデジタル病とでもいえる生徒の現状がある。OPACでの検索は生徒も夢中になりピンポイントで書物を探せるが、反面、書庫での偶然の出会いがなくなる。例えば、本の表紙の色も著者が伝えたい情報の一つであり、そういった人間くささも大切にしたいという種谷先生。デジタル情報を扱う技術をしっかり習得させると同時に、図書や新聞といった紙媒体ならではの特徴や魅力を伝え、真の意味でのメディアリテラシー教育に今後

### ワークシート「マスメディアに関心を持つ」

ダウンロード可

#### 日本の四大ネットワークと地元地方紙を覚えておこう

新聞社	(A)	朝日新聞	毎日新聞	(B)	中国新聞
系列スポーツ紙	報知新聞	(C)	(D)	サンケイスポーツ	—
テレビ局全国	日本テレビ	(E)	(F)	フジテレビ	—
テレビ局広島	(G)	広島ホームテレビ	中国放送	(H)	—

空欄A～Hをいくつ埋めることができるかトライしてみよう!

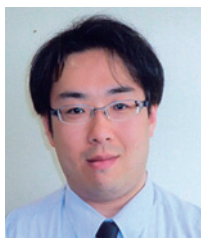
読書科ワークシート「マスメディアに関心を持つ」ダウンロード可  
 (A)読売新聞 (B)産経新聞 (C)日刊スポーツ (D)読者新聞 (E)読者新聞 (F)読者新聞 (G)読者新聞 (H)読者新聞

# 学校図書館の活性化事業から始まった 主体的な「調べ学習」の取り組み

— 徳島・県立 城東高校 —



企画・研究班  
寒川由美先生



野口歳樹先生

## School Data

普通科 / 1902年創立  
生徒数 / 1081人(男子507人、女子574人)  
進路状況(2010年実績) / 大学80.4%、短大1.1%、  
専門学校5.9%、就職1.4%、その他11.2%  
徳島県徳島市中徳島町1-5  
TEL 088-653-9111  
URL <http://www.joto-hs.tokushima-ec.ed.jp/>

## 進路志望別「課題研究」の プログラムを改編

徳島県立城東高校には「企画・研究班」という独立した分掌があり、総合的な学習の時間の内容の精選や開発などを行っている。この企画・研究班と2年生の学年団が共同で、2009年度から取り組んでいるのが文部科学省の「学校図書館の活性化推進総合事業」。以前から行っていた総合学習の中の進路志望別グループによる課題研究において、図書やインターネットを利用した主体的な調べ学習を推進しようとして候補したものだ。

「当時は課題研究で、生徒自身に、問いを見つけてさせる難しさを感じていました」と企画・研究班の寒川由美先生。「インターネットを使うと、生徒たちは問いから答えまで載っているものを紹介するにとどまってしまうがち。興味関心から生まれた本物の問いではないから、考える、作業も抜けてしまいます」。そこで、「なぜその問いに行き着いたか」を必ず書かせるようにした。また、「課題研究のテーマ設定」という内容で専門家(関西学院大学・宅間紘一先生)による生徒向けの講演も実施した。そして、生徒がデジタル情報だけに頼らず図書にもアクセスするように、本格的なグループによる課題研究に入る前に、新書を何冊か読んで内容をまとめるという作業を課した。「本の内容をまとめることも、考える作業のひとつ」(寒川先生)と考えてのことだ。また、学校図書館の蔵書を

充実させるのには限界があるため、市立図書館や県立図書館と連携。インターネットの検索サービスを通じて本を予約すれば学校に届けてもらえるというシステムも取り入れた。

## 考える過程で実感する

### 「ネット」と「図書」両方の重要性

「ネットリテラシーや、図書を使うことの重要性については情報の教科書にも書かれています。けれども、自分が興味のあるテーマを研究するときにネットや図書を活用するという実体験を通して学ぶことで、理解度はぐっと深まります」というのは、今年、2年生の課題研究を担当している野口歳樹先生だ。

研究事業に参加して意外な効果もあった。従来の課題研究はグループごとに発表

して終わりだったが、予算がついたことから全員の成果を冊子にまとめることになった。自分たちの研究成果が冊子になるというところで、教員も生徒もモチベーションがアップ。先輩の取り組みが「目でわかるようになったこと」から、翌年には「昨年よりいい論文にしよう」という気運が高まった。

こうして、いっそう真剣に取り組むようになる。プレゼンでの生徒同士の評価も変わってくる。以前はパフォーマンスの面白さなどが重視されていたが、聞く方も自身の充実度を求めるようになった。

一方で課題も見えてきた。「インターネットの情報は図書で確認を、と指導していますが、ニュース性の高い最新情報はそのサイトなど、有料サイトの導入を検討する時期にきているのかもしれない」(寒川先生)。

## 進路志望別グループと課題研究のテーマ (2010年度、代表として選ばれたテーマ)

自然科学グループ	「CHANGE YOUR LIFE! ～トランスジェニックを用いて」
工学グループ	「環境にいい家とは」 「3D化伝～なぜメガネなしで3Dに見えるのか?～」
医療グループ	「大麻×医療＝? ～世界を取り巻く大麻のあり方～」 「写真が私たちを救う? ～検査機器について～」 「なぜ歯は再生しないのか?」
社会科学グループ	「なぜ情報にだまされるのか?」
人文科学グループ	「韓国 日本への対抗意識の裏に ～100年の時を超えて～」 「ストレスと人間関係は?」
教育グループ	「のぞいてみよう 未来の教室」 「How to communicate with your kids」
生活科学グループ	「糖尿病ってどんな病気?」
芸術グループ	「ラジオなのに、どうして、がんばる、 視覚要素ラジオDGS」

# 全国に先駆けiPad導入。 興味をもったら即調べる習慣を獲得

— 福岡・私立 博多高校 —



進路課  
山田雅人先生

佐々木雄三先生

### School Data

普通科・看護科 / 1941年創立  
 生徒数 / 987人 (男子393人、女子594人)  
 進路状況(2010年実績) / 大学24%、短大5%、  
 専門学校27%、看護専攻科20%、就職23%、その他1%  
 福岡県福岡市東区水谷1-21-1  
 TEL 092-681-0331  
 URL <http://www.hakata.ed.jp/highschool/index.php>

## 授業の集中力や理解度の アップに役立つ

普通科2コース(博多興志館・キャリアデザインコース)と看護科からなる私立博多高校。いずれの科でも、30歳をひとつのゴールに設定したオリジナルの夢工房ノートを使いながら、生徒一人ひとりをきめ細やかにサポートするキャリア教育を展開している。

同校が高校の教育現場としては初めて、タブレット型コンピュータのiPadを100台導入したのは昨年とのこと。まずはひとりで1台ずつ使ったの教科学習から活用を始めた。学校で実施するのは難しい理科の実験を動画サイトを通じて見る、社会科で世界遺産の授業を行えばグローバル

### 小テストでのiPad活用例

独自に開発したアプリを使って、小テストを実施。授業の終わりに小テストを行い、生徒はiPadを通じて答える(左)。終了すると、すぐに教員のiPadに集計情報が入る(右)。これで、全体の理解度が低かった問題はその後で復習するなど即効性の高い指導が可能に。

問題1	正解数:	23
	不正回数:	7
問題2	正解数:	22
	不正回数:	8
問題3	正解数:	10
	不正回数:	20
問題4	正解数:	14
	不正回数:	16
問題5	正解数:	27
	不正回数:	3



### 介護施設の訪問ボランティア



ボランティア活動の一環として介護施設を訪問し、生徒による「iPadを使った認知症予防講座」を開催。

### 最新の機器に触れることで 情報リテラシー能力を高めたい

そして、これから教科学習以外でもiPad活用の幅を広げていく考えだ。すでにマップで確認するなど、活用法は無限。「授業にあまり興味がなかった生徒の取り組み姿勢が変わりました。視覚聴覚に訴えるので反応がよく、教科書だけの授業より理解度が上がったという手応えを感じています」と社会科の佐々木雄三先生。パソコンとは違い、各教室などどこでも使えることも大きなメリットだ。後回しにしがちなこと、そのまま忘れがちな疑問もすぐに調べられる。

そして、これから教科学習以外でもiPad活用の幅を広げていく考えだ。すでに

に、高大連携の一環として大学講師からアプリケーション開発の授業を受けたり、介護施設でのボランティア活動に活用(写真)している。さらに現在、こういった取り組みをiPadを使って文化祭で発表できるよう準備を進めているそうだ。ただ情報を得るためだけに使うのではなく、何かを生み出す力や伝える力を養うためにもiPadを活用していきたいとのこと。当然、今後は進路探究学習などにも使っていく考えがある。

「15歳という早い時期から最新の機器に触れた皆さんの情報を浴びることで、情報リテラシー能力を高め、自分たちに必要な情報を選択する力を養うきっかけになつてほしい」というのは進路担当の山田雅人先生。まだ、誕生したばかりのiPadに、教育現場でどんな活用法があるのが注目される。